

午前11時9分再開

○議長（手嶋源五君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、6番中島秀樹議員の質問を許可します。6番中島秀樹議員。

（6番中島秀樹君登壇）

○6番（中島秀樹君） 皆さん、こんにちは。6番議員の中島秀樹でございます。きょうは朝倉市の魅力についてを中心に質問をさせていただきたいというふうに思っております。

先日、友人から電話がかかってまいりました。「中島、この前、おまえがサマークリスマスツリーというふうに言って、蛍が鈴なりになって見られるところがあるというふうに聞いたけれども、それはどこだ」ということを聞かれました。私は、それは高木だよということを伝えまして、寺内ダムから上って行って2つ目の橋を渡って1キロぐらい行ったら分岐点があって、それを黒川のほうに行くんだということを伝えました。

きのうの夜も私の家族は、そこに蛍を見に行っております。私は、一般質問の準備がありましたので残念ながら行けなかったんですが、子どもが帰ってきたら「聞いて、聞いて」というふうに、私のところに駆け寄ってきました。帰り道、野生のシカを見たというふうに言いました。道を物すごく大きなシカがのんびり歩いて、車が通っても全然よけないんだということを娘は言っております。私は野生のシカというのは実は見たことがないんですけれども、カナダの草原を歩いているような角の大きなゆったりと歩く、そういうシカを連想いたしました。

私は、朝倉っていいところだなというふうに思いました。初めて高木の鈴なりの蛍を見たときも、息を飲むような美しさというのはこういうものだなというふうに思いますし、福岡都市圏から1時間ぐらいのところで道路を悠々と歩くシカが見れるというのもいいところだなというふうに思っております。

私はサラリーマンだったので、転勤が多くて、どちらかというとアパート暮らしが多かったです。土の上に寝ていたことは余りありません。どっちかというと空中で寝てた時期が多いです。

私は子どもが3人いるんですが、長女と長男は、窓をあけたりすると虫が入るから嫌だとか、ジグモが出るとクモは気持ち悪いとか、そういったことを言います。小学校4年生の次女がいるんですが、うちは猫を4匹飼っているもんですから、トカゲをよく猫がくわえてまいります。そのトカゲを見てはつかまえて、かわいい、かわいいとなでて、飼うんだと言って虫かごの中にトカゲを入れております。この違いというのは何なんだろうというふうに私はよく考えます。それはきっと、小さいころに朝倉市に住んでたということがやはりキーポイントになるのではないかなと思っております。朝倉の記憶がいかん本人に残っているのか、いい思い出をどれだけ持っているのか。それが朝倉に対する印象、ひいては朝倉に長く住んでもらえるかぎになるのではないかなというふうに考えております。

議会のほうでは、議会改革の一環として活発な議会討論を期待しております。議会の見

える化が必要だというふうに考えております。そういった中で、きょうも議場で私は議論を交わしたいというふうに思っております。市長でない限り「それはいいですね。すぐやりましょう」ということは、職員の方は言えないということとはよくわかっております。しかし、ここで意見を戦わさせて、何か新しい希望の光か何かが見えたらいいというふうに思っております。私は、意見が異なることを尊重して、その意見の対立から学びや力を得られればいいというふうに考えております。

続きは、質問席から質問させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

（6 番中島秀樹君降壇）

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） では、通告書に従い質問させていただきます。

まずは、副市長にお尋ねいたします。私は副市長がおみえになったばかりのときに、私が朝倉市の問題点ということで、交通の便が悪いとか、そういったことを申し上げました。そのとき私は副市長に「朝倉市の問題点は何か」というふうなことをお尋ねしましたらば、高齢化を心配してるということをおっしゃられました。

最近私がよく地元の飲み会なんかに行くと、「ここら辺は20年後はジャングルになるばい」「住む人がいなくなって荒れ地になる」という言葉をよく聞きます。私の地元でもちらほら空き家が目立つようになってまいりました。ジャングルになるというのは極端な言い方かもしれませんが、あながち20年ぐらいのスパンで見た場合は、大げさな話ではないのかなというふうに思っております。

私は、若い者がいなくなって地域が衰退してしまうのではないかとというふうに心配しております。私の近所の人にも心配しております。これについて副市長は、大げさだというふうにお考えでしょうか。どのようなお考えをお持ちか、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埴本 潔君） 全国的な傾向としまして、人口減少というのは進んでおりますし、福岡都市圏の一部を除きまして、福岡県につきましても今後人口減少が進んでいくのではないかとことを考えますと、物事を営むにはそこに人がいて初めて成立する事柄というのはたくさんありますので、朝倉市としまして、今後人口減少がどの程度の速度で進んでいくのかというところは念頭において、心配するところは心配をして、引き締めるところは引き締めて、活発化させるところは活発化させてやっていかななくてはならないというふうな認識を持っております。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 人口減少というのは日本の大きな流れで、これは致し方がないということとはよくわかっております。私はある資料で、朝倉市の人口が平成37年には4万5,000人になるという資料を見たことがございます。今から約13年後ぐらいに1万3,000人減るような形になりますので、大体1年に1,000人ぐらい減っていくような形になると思

います。

そういった中で、どうせ世の中の流れで日本全体が減るんだから、朝倉市だけが抵抗するというのは無理だという考え方も確かにあると思うんですが、少なくとも現状維持に努力をする必要があるんじゃないかというふうに考えます。現状を維持することによって、仮に大きな世の中の趨勢として減ったとしても、減少のスピードを減らすことができるのではないかというふうに考えております。この点についていかがお考えか答弁をお願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（埜本 潔君） 人口が減るということについては、行政としてもきちんと認識をして取り組んでいく政策課題だというふうに考えています。ですから、社会の趨勢であるということではなくて、いかにそこに施策を打ち込んでいくのかと。国レベルのものもあれば、県レベルあるいは市のレベルのもの、それぞれあるというふうに考えています。

大きな区分けとしましては、御承知の自然増減、それから社会増減というのがありますので、それぞれに対して的確な施策を打っていくと。ですから、市としましても、例えば乳幼児医療費の問題あたりも一つの少子化問題をとらえた政策だというふうに考えておりますので、今後も市として行うべき施策については、積極果敢に取り組んでいくということが必要であるというふうに考えてます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） いろいろな施策、国、県、市のレベルで施策があるということですが、そういった中で市でできるレベルの施策は、積極果敢に打ち込んでいく。私も、ここは市議会ですので、市としてはそういったスタンスをとっていただきたいというふうに思っております。

そういった中で、もちろん人口がふえたほうがいい、もしくは現状維持のまがいいんですが、この中身は、やはり高齢化率というのが高くなっていくというのは、これまた時代の趨勢で30%から40%、将来はこういった高齢化率になっていくというふうに私は考えております。

そういった中で、私は生産年齢人口、やはり若い人たちに、朝倉市にやはりできるだけ残ってもらう、それから来てもらう、そういった施策が私は必要ではないかなというふうに思っております。

そういった中で、若者にとって魅力ある町とは何か。私は冒頭で、シカが見れるとか蛍が見れるということを申し上げましたが、これは私が考えている魅力ある町なんですけれども、自然が大好きな私、これは都会暮らしが長かったから、その反動かもしれませんけれども、そういった自然豊かな朝倉市が好きなんです、魅力あるまちというのはどのようにお考えか、お聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 行政経営課長。

○行政経営課長（秋穂修實君） 若い人にとっての魅力あるまちだとはどういうことかということですけど、まず若い人たちの行動にはそれぞれ考え方も、価値観も、多種多様であるとは考えます。都会に対しての憧れ、あるいは買い物、それから娯楽ができると、そういうことに魅力を感じる方も多いのかもしれませんが。

しかしながら、朝倉市には朝倉市にしかないオンリーワンとしての魅力があると思っています。豊かな自然や歴史、それから文化、秋月や三連水車や原鶴温泉などの観光地、それから豊かな農産物、こういったものは都市部にはなかなかない魅力があると思います。

さらには、甘木鉄道、西鉄甘木線、3つのインターチェンジを有します高速道路、福岡市へのアクセスのよさ、こういったものも大きな魅力だと考えています。

福岡都市部や福岡空港、博多駅などでも1時間以内でいくことができ、大都市の持つ機能というものも十分満喫することができます。まさに田舎のよさと、それから大都市の持つ機能を味わうと、両方味わうことができる魅力的な地域であると考えております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私は、魅力を高めるためには、市として差別化を図っていかないといけないというふうに思っております。単なる田舎というのは日本中にたくさんありますので、やはり自然が豊かであるということを切口にするのであれば、そこに差別化、付加価値をつけないといけないというふうに考えております。

そういった中で今、課長のほうから三連水車や秋月などがオンリーワンとしてあるということが出ました。ただ、これは若者と余り結び着かないような、どうしてこれが若者と結びつくのかというのが、よくわからないんですが。ただアクセスが非常によくって、1時間ぐらいで福岡に行けるとこれは私は魅力だというふうに思っております。

あるとき、確か別の会議だったと思うんですが、課長とお話したときに、週末と平日の使いわけということをおっしゃられたと思います。平日はとにかく自然豊かなところで一生懸命働く。そして土日になったらゆっくり天神で買い物に行ったり、三連水車で羽を伸ばしたり、そういったことができる、魅力があるというようなことを、課長確かおっしゃってたと思います。

週末と平日の使いわけといいますか、そういった面で若者にアピールできるというふうには課長、お考えではないでしょうか。

○議長（手嶋源五君） だれ。行政経営課長。

○行政経営課長（秋穂修實君） そうですね、若い人の行動というのはいろいろありますので、やっぱり朝倉市に住んで土日に、大都市にいろんなことを楽しみに行くということとまた帰ってきて、ゆっくり安らぐとか落ち着くとか、いやせるとか、そういったものを魅力にしていかなくちゃいけないかなと思いますね。ちょっと具体的にはまだ、この場では思いつきませんけど。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 多分私は、課長がおいしい食べ物とかおっしゃられましたので、こういったのというのは小耳に挟んだお話から言っているんだというふうに思うんですが、そういった中でやはり若い人たちに、朝倉市の魅力というのを発信していかないといけないというふうに思っているんです。その前に、朝倉市に対してどういったことを望むとか、どういった意見を持っているとか、そういったことを私はヒアリングする必要があるのではないかなと。日ごろ、朝倉市に対してこういうことを、20ぐらいの若者が望んでいるということを聞くべきではないかなというふうに思っております。

そういった中で、これは私の一つ提案なんですが、毎年成人式をしております。成人式はピーポートで一堂に会して成人式をするんですが、その後も前でもいいんですけども、各地区の公民館に成人になった方を集めて、朝倉市の俗に言う地域の役員の方とか地域の方と語り合うような場、自分はきょうから大人になるけれども、朝倉市に対してこういうことをしてほしいとか、朝倉市に対してこういうことがあったら自分は将来住んでみたいとか、そういったことを聞く場というのを設けたらいいのではないかなというふうにきのうの夜思ったんですが。提案としていかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 行政経営課長。

○行政経営課長（秋穂修實君） 非常にアイディア、御提案だと思います。やっぱり今からコミュニティが進んでいく中では、それぞれ個々の地区といいますか、そういったところでいろんな特色ある、個性ある取り組みをしていかないかんといいのもあると思いますけど、小さな範囲で成人者集めるというのは意外と簡単な取り組みでできるんじゃないかなと思いますので、それぞれやっぱり朝倉市に住み続けてもらおうとか、成人式の際に遠くから帰ってきた人とか、そういった意見を聞いて政策に生かすというのは、非常にいいことだと思います。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） せっかく遠くから帰ってきた人たちの若者をとらえるいい機会だと思いますので、ちょっと私は思いつきで申し上げているようなところもあるかもしれませんが、もし可能であれば実現していただけたらというふうに思っております。

そういった中で、魅力あるコミュニティというのは私はやっぱり必要だというふうに思っております。

これからコミュニティへの移行が進んでまいります。そういった中でコミュニティの個性を出していくというのは必要だと思います。あそこのコミュニティは非常に元気があるとか、ここのコミュニティはいま一つ元気がないとか、そういった違いが私は出るべきだというふうに考えております。

そういった意味で、コミュニティの推進の立場から、今私が言いました若者の意見を聞くとか、それから地域の元気を出す、それから朝倉市の魅力を高める、こういったのはどういったことを日ごろお考えか、コミュニティの推進の立場からお聞かせいただきたいと

思います。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） 今御質問いただいた件ですが、御存じのようにそれぞれのコミュニティ組織で、それぞれの地域の実態にあったコミュニティ組織づくりを今進めていただいているところであります。その中に、若者だけではなく女性、女性と若者が一つの大きなポイントではないかなと、私自身思っているところでございます。

旧来の組織の中では、なかなか女性と若者の意見を取り入れるようなシステムになり得てないというところを、今後コミュニティ組織を構築していく中で、ぜひ取り入れていただきたいということをそれぞれのコミュニティ組織には伝えさせていただいておるところですが。先ほど議員のお話の中にもありましたように、若者が小さいときに、保育所時代、幼児時代からあるいは小学校、中学校と成長していく過程の中で、地域の中で育てられておるということは非常に大事ではないかなというふうに思っております。

コミュニティ組織、確かにそれぞれの運営は、若者がいなくなった中で厳しいところがあるかなと思いますが、魅力あるコミュニティ活動の中で、そういった若者たちを上手にとというか、大事に育てていく。そんな組織の中で、外へ出て行かれてもやっぱりふるさとを愛するような子どもたちが育っていければ。仮にですけど、地域から出ていった若者でさえ、将来的にはその地域にまた何らかの形で貢献するような、そういったあり方も一つは大事ではないかなと思いますので、コミュニティ推進の立場から言えば、そういった若者を育てることも大事であることを皆さんにぜひお伝えしながら、今後進めていきたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） コミュニティの中で若者が活躍できれば私はいいのかなというふうに思っております。例えば公民館がちょっとした道の駅のような役割を果たすとか、そういった活躍の場といいますか、そういったのを若者に任せるとか、そういった使い方もあるのかなというふうに思っております。

そういった中で室長のほうから今、女性の活用という言葉が出ましたけれども、コミュニティの中での女性の活躍を高める、こういったことをするためには、具体的にはどのようなことをお考えでございますでしょうか。

○議長（手嶋源五君） コミュニティ推進室長。

○コミュニティ推進室長（養父英輔君） コミュニティの中で女性が活躍する場ということを、今それぞれのところで検討をいただいております。確かに非常に難しい問題が、それぞれのいろいろな団体から出ていただいておりますので、女性が活躍する場がない、先ほどもおっしゃったように若者が活躍できるような、体制としてなかなかないというのがありますので、そのあたりにつきましては一気にはできないと思っております。

ただコミュニティ活動を推進していく中で、女性なり若者が入れるようなあり方、一つ

言えば、ボランティア的にかかわれるような若者なり女性がそこにかかわれるような仕組みづくり。そういうことが今後期待できるのではないかなと思いますので、そのあたりをそれぞれの組織にお伝えさせていただきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） ありがとうございます。

次に、私が朝倉市の若者を引きとめるために重要な施策というのを4つ考えてまいりました。その中でまず、農業についてを申し上げさせていただきたいと思います。

私は朝倉市の基幹産業は農業だということ昔から言われてきたことです。山の上から朝倉市を眺めれば、広大な農地が広がっております。農家が元気がいいということは、朝倉市の活性化につながるというふうに考えております。

そういった中で、よく聞きますのが、朝倉市は農産品はいいものをつくっているんだけど、なかなか売るのが下手だという話をよく聞きます。

また、農家の方のお話を聞きますと、自分の息子を継がせようとは思わない。農業は自分の代でもう終わりにしたいという声をよく聞きます。先ほど申し上げましたように、農家の発展イコール朝倉市の発展というふうに私は考えておりますので、農家の数が減るということは朝倉市が衰退するということを意味しているというふうに私は理解をしております。

そういった中で私は、いいものをつくっているんだから、もっと高く売れるような、そういったマーケティング的な手法が必要ではないかなというふうに考えております。もうかる農業をやはり確立しないといけないというふうに思っております。そういった中で、私は朝倉市の特産品、昔は万能ネギがよくでてたんですけれども、あの万能ネギはネギを朝倉で作りまして、東京で飛行機で運んで売るという、この仕組みが私はヒットしたというふうに考えております。やはりこういった仕組みを考えていく必要があるのではないかなというふうに思っております。

また、先ほど付加価値を朝倉市につけるというふうに申し上げましたが、農産品につきましても、付加価値をつけることがやはりもうかる農業の大前提だというふうに思っております。

そういった中で、私は農家の元気が今ちょっとないんじゃないかなというふうに思っております。職業としての農業が私は脅かされているのではないかなと思っております。先ほど言いましたように、私は農業が栄えれば、朝倉市が栄えるというような考え方をしております。この点につきまして、担当課はいかがお考えか、御意見を聞かせていただきたいと思いますと思っております。

○議長（手嶋源五君） 農林商工部長。

○農林商工部長（大楠吉博君） 農業についてでございますけど、今の農業の現状は、本当に厳しいものがあります。農産物の価格の低迷とか高齢化、後継者不足、異常気象によ

る生産量の減少、後震災、原発による消費低迷ですね。海外的にはT P P問題ということで非常に厳しくなっております。

これに対応するために市といたしましても、市内独自にやっているんですけど、主に補助事業関係で施設、ハード面、ハード面の事業が主な事業になっております。さっき議員がおっしゃいますように、流通面とか特産品の開発というのは、専門団体まかせというふうなことがあります。しかし、その開発についてもですね、当然市も中には入ってますけど、中心的存在はそちらの団体のほうになっているように思われます。

それで今後ですね、そういう農業振興課だけではなかなかそういう部門、農業関係の育成とかはできますけど、流通販売部門になりますと確かにほかの課、商工観光課とか、そういうのが入ってくるかとは思われます。それで市といたしましても、今課とかは別になっておりますけど同じ農林商工部内でやっておりますから、そこ辺の横の調整を十分に図って対応していきたいと考えております。もちろん専門団体とか県、国の力を借りらんと、これはできないことだと思っております。以上です。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 積極果敢な市としての政策を私は打っていくべきだというふうに考えております。農業はもうからない、もうかりたかったら、専門団体から離れたほうがいい。専門団体とは離れて自分で販路を拡大したほうがいいというような意見もよく耳にいたします。そういった意味では私は市として、もう一步踏み込んでやるべきではないかなというふうに思っております。

私は、農業は非常に大事ですし、農家というのはコミュニティの中でも非常に大きな役割を果たしていると思っております。例えば地域清掃においても、地域行事においても、農家の存在というのは非常に地域を支える意味でサラリーマンよりは貢献が大だというふうに考えております。そういった意味で農家というのはやはり、ある程度コミュニティを維持する上でも私は必要だというふうに考えております。まず、この考え方については、どんなふうでしょうか。農家は私はコミュニティに貢献してる、だから農業、農家を守らないといけないんだという考え方なんですけど、これについていかがお考えでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 農林商工部長。

○農林商工部長（大楠吉博君） 議員おっしゃるとおりでございます。今のコミュニティをつくっているのも、各地区に農家の方おられますので、そういう人たちの力が物すごく大事だと思っております。農業を活性化させると、そういうところまで発展して、その地域が活性化していくんじゃないかなというふうに考えておりますので、同じ意見でございます。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） そうしましたら、私はやはり一つのロールモデルといいますか、もうかる何か第2の万能ねぎ的な存在のものが需要ではないかというふうに思っております。

す。

これも私さう考えまして提案なんです、農業の振興というのは農業振興課がやるんでしょうけれども、やっぱり非常に忙しいということもありますし、農業振興課というのは私のイメージでは農業の一次産品といいますか、そういったものをつくるイメージを持っております。

そういったなかで、ジャムとかでも一次産品でも何でもいいんですが、農業の特産品をつくる特産品課というのをつくりまして、そこに1名職員を置きまして、とにかくそればかりやるといいますか、そういった考え方はできませんでしょうか。産業マネジャーみたいな、そういう私はイメージを持っているんですけども、企業誘致ばかりをやって、とにかく企業誘致をしてください。それと一緒に、特産品をとにかく朝倉市から一つヒットを飛ばせば、あなたの仕事はもう100%やったも同然ですよというような、そういった部署をつくったらいかがかなというふうに思いますが、これについていかがでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 農林商工部長。

○農林商工部長（大楠吉博君） そういう専門の課ということでございます。確かに大きい政令都市とか、そういうところはそういう余裕的なものもあるかと思いますけど、今の朝倉市の現状の中では、人員の関係もありますし、先ほども言いましたように農業振興課と流通関係の商工観光課を持っておりますので、その中でそういうのが可能かどうかは、いろんな専門団体の意見とかも聞いて行っていきたいと思っております。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） ちょっと誤解を与えたいけませんので、私のほうからちょっと補足をさせていただきます。人員の問題というのは、これはこちらの話であって、だからといって置かんでいいという話じゃないわけです。ただ、うちの場合は現在、今大楠部長が部制をしております。その同じ部に、いわゆる農業振興課、それから商工観光課です。

これは部の中で言われるようないわゆる特産品をつくるという、例えば農業のある部門と加工業、食品加工業のある部門をマッチングすると、そういうのは部の中で、このことを大いにやっていかなきゃならん。すぐに特産課をつくるということじゃなくて、まずはそういう形の中でやっていくということで、今後やらしていただきたいと思っております。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 私もここで提案しましたが、じゃ、すぐ特産品課をつくりましょーうと、こういうふうになるというふうにはもちろん組織ですので、そんな簡単なものではないというふうにはわかっております。ただ、一つの考え方、アイディアとして、やはりそういったものも必要ではないかということだけは御理解いただきたいというふうに思っております。そういった中で商工観光課と農業振興課がコラボをして、特産品化を図っていくと、これはこれで私はいいというふうに思っておりますので、そういった農業を盛んにすることが朝倉市の発展につながるというふうな考え方持っておりますので、御理解い

ただきたいというふうに思っております。

次に、私は働く場につきましても、やはり若い人が働く場を設けるというのは大事だというふうに思っております。先日、惣和さんが安川から出ていこうとしたのを朝倉市が引きとめまして、工場の増設となった。そして、なおかつ新規の雇用を100名超するという。これは産業政策マネージャーのベストプラクティスだというふうに思っております。この流れを私は、やはり守っていただきたいというふうに思っております。

こういった中で、キリンビール、BS、やはり私は朝倉市というのは、企業誘致のDNAである意味大きくなってきた市、今の地位がある市だというふうに考えています。そういった中で、働く場の創造というのは私はもっと必要ではないかなというふうに思っております。市のほうといたしまして、この働く場を確保するということにつきましては、現状どういったことをなさっているのか、また第2の企業誘致につきましては、ある程度のめどが立っているのかどうか。ここら辺をお聞かせいただきたいというふうに思っております。

○議長（手嶋源五君） 農林商工部長。

○農林商工部長（大楠吉博君） まず働く場をつくるための方策として考えられることとして、大きいのは企業誘致、それから、これは余り効果があるかどうかわかりませんが、緊急雇用事業等、今あっておりますので、そういうのがあるかと思います。それと農産物直売所のように直接雇用もありますけど、それだけではなくて、農産物の需要創出や経済波及によって雇用を生み出す施設の整備もその一つであると思っております。それと、市内企業への工事などの発注、そういうのも働く場をつくり出す等の一つではなかろうかと思っています。それと後、誘致だけじゃなくて、今ある産業、それを元気づけること、これがまた雇用拡大につながってくるんじゃないかかと考えております。それで後は、観光振興とか農業・商業による連携による新しい商品、サービスづくり、そういうのも働く場になってきてると思います。

後、地域活性化についてですけど、市だけの取り組みということで、中小企業の資金援助とか、そういうのはやってますけど、後商工会議所やら商工会などと一緒に活性化していくということも重要だと考えております。

こういうことで働く場をつくってきたいと考えておりますけど、市がどういうことをやっているのかというと、今力を入れているのは企業誘致、第2の企業、惣和に次ぐような第2企業が今のところまだそこまではいってない。今一生懸命県と協議しながら模索しているというような状況でございます。以上です。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） ぜひとも惣和に続く第2のベストプラクティスを出していただきますようにお願いします。これは先ほど言いましたように朝倉市には、このDNAはあるわけですから、私は絶対できるというふうに思っておりますので奮起を期待いたします。

次に、教育について申し上げさせていただきたいと思います。

私がもしあと20年ぐらい若くて、朝倉市、筑前町、小郡市、大刀洗町、どこに住もうかなというふう迷った場合に、やはり教育の充実しているところに住みたいなというふうには思うと思います。教育水準が高いところに私は住みたいなというふう、夫婦で話し合っ
て判断をすると思っております。そういった意味で朝倉市の教育というのは、非常に若者にとって魅力あるべきものでなければならないというふうと考えております。その点、教育水準を含めて、朝倉市の教育の現状は魅力あるものというふうにお考えでしょうか。御意見を聞かせていただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 教育部長。

○教育部長（日野博次君） 人口の減少に歯どめをかけるために、教育についてでございますが、その関係につきましては、私は市内の小中学校が特色ある教育あるいは学校づくりあるいは魅力ある学校づくりだというふうに思っております。

本市の小中学校におきましては、近隣の小中学校と比較いたしましても、教育力であったり学校力につきましては、非常に高いというふうに思っておるところでございます。これが本市の小中学校の特色の一つではないかというふうに思っているところでございます。

本年度は、各中学校区を単位に小中連携の取り組みの組織づくりを小中学校が一体となった教育を進めているところでございます。その目標は、朝倉市学校教育目標に掲げております「高い志を持って意欲的に学び、生きる力をはぐくむ魅力ある学校づくり」でございます。

議員が言われるように、他の市町村にない特色ある教育を行うことが、人口の流出に歯どめをかける方法の一つではないかなというふうに思っているところでございます。しかし、教員の指導力を高め子どもたちの知・徳・体をバランスよく保護者が子どもたちを安心して預けられる学校づくりを行っていくことが大切ではないかなというふうに思っておりますし、地域のゲストティチャーの活用などはその方策の一つではないかなというふうに思っているところでございます。

お子様が安心して預けることができる魅力ある学校づくりを行っていくところが、本市の小中学校の特色であり、学校ができる人口流出に歯どめをかける方策ではないかなというふうに思っているところでございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 親御さんが安心して子どもを学校にやらせることができるゲストティチャーなどを招いて特色がある教育をする、これも一つの私は切り口だというふうに思っております。ただ、私はこういった意見を聞いたことがあります。「中島君、結局学校にやっても、子どもは塾にやらせないといけないんだよ。塾にやらせるんだったら、大体月謝は3、4万円かかる。それだったら、もう3、4万円どうせ塾のお金を払うんだから、私立に最初からやったほうが確実だ」、そういった意見を私の同年代の人からは聞く

ようになりました。

そういった意味で私は、いろいろあるかもしれないけど、最後は学力なんだ。親御さんが望んでいるものは学力なんだ。もう特色ある教育とかそういうのはおいといて、まずは詰め込んで勉強させて、高い点数をとらせてください。そういった考え方もありなのかなというふうに私は個人的には思っているんですが、これは教育現場から見ると、考え方としては間違っているというふうにお思いでしょうか。御意見をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 魅力ある学校はということで先ほど部長が述べましたように、これから先の学校をどんなふうにするかというときに、一つは高い志を持つということ、そのために意欲的に学ぶと。そして生きる力を身につけていく、そのような魅力ある学校ということで考えています。

今おっしゃいました学力については、学校のもう基本的なところですので、それを抜きには学校は考えられないと思います。しかしながら、学力をつけることはもちろん目指すわけですが、それだけでいいのかといった場合に若干最近いろんなことを考えながらいますので、ちょっと述べさせていただきたいと思いますが。

この魅力を考えるとき、どこから魅力をとらえるかということで、一つは子どもさんたちにとって魅力があるかどうかということで考えてみようということで考えてみました。子どもさんたちが、この学校に行きたいと、この学校だったら安心して勉強できるって、そういう学校が必要だというふうに思っています。

2番目は保護者の立場からですね、この学校にやりたいと。結局おうちの方は、自立できる人間を育ててほしいと思っていられっしゃるわけですから、学力をつけてするの子どもたちが自立していける、その基礎になるところですので、そういう意味で学力等もおっしゃってあるというふうに思っています。

親御さんが考えているのは、ただ点数がよければいいというだけではなくて、人間性とかいろんな含めて自立できる、そのような人間だというふうに考えていられっしゃるというふうなことを考えて、保護者にとっての魅力ということを考えています。

次に、地域社会の立場から考えてみたらいかがだろうかというふうなことを考えました。地域にとりまして、学校が地域のシンボルとして誇り得る、また後継者を育てる、そういう場であるということにならないと。そこで言ったのは、みんなよそに行ってしまうというんではいけないんじゃないかなというふうに思っています。学校ですので、その学校で育った子どもさん方が、世界に羽ばたくような子どもさんもいられっしゃいましょうし、地元でしっかり頑張られっしゃる子どもさんもいられっしゃいますでしょうが、そのようないろんな立場の子どもさんはいられっしゃると思いますけれども、地域の方の願いは、おらが学校として将来自分たちの跡を継いでくれる、そして地域を活性化する、そういう後継者

がこの中から育つよなという期待を持っていらっしゃるというふうに思っています。

最後はですね、先生方にとって、そこで働く先生方にとって、魅力ある学校にしなければいけないと。これまではどちらかと言いますと、子どもさんにとって、保護者にとって、地域にとってというところは考えてまいりましたが、先生方にとって本当にここで働きたいと、やっぱり朝倉市の学校で働きたいよなと言われるような、やっぱり職場環境をつくることが、ひいては子どもさんや地域、それから保護者の方に、この学校は信頼できるというような学校をつくられるというふうに思って、この魅力ある学校にしたいというふうに思っています。

ちょっと長くなりましたが、先ほど学力のことはもうそのとおりでございますが、今考えていますのは、地域で地域を育てていく人材を育てたい、人物づくりに取り組みたいというふうに考えています。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 教育長のお言葉、大変私、胸に響きました。私も地域の後継者になりたいと思って、この職業を選んだ部分もございます。また、人物を育てるというのも、よく理解できました。私にも友人がたくさんおりまして、議員という立場ながら人の助けを借りないといけない職業でございます。そういった中で、本当に頼りになる友というのは、ある意味頭ばかりいいやつではなくて、非常に人物ができた気持ちのいいやつといえますか、どちらかという学校では余り勉強ができなかったようなのが、この年になって役に立つといえますか、非常に地域で頑張っているような気がいたします。

そういった意味では、学力ばかりがあったほうがいいんじゃないかということ、間違ったこと私申し上げましたけども、教育長のそういった方針であれば、私はそれについてぜひとも頑張っていたきたいというふうに思っております。

次に、住居について申し上げます。

私は今若い人たちは、非常に不況の中、経済的に困窮をしておりますので、所得が低いというふうに考えております。そういった中で、一軒家を買うというのはなかなかもう難しいだろうというふうに考えております。

私が住んでいる桑原地区というのは、実は小学生の入学者といえますか児童数が多いんです。これはなぜかといえますと、市営住宅があるから、そこに若い夫婦がたくさん入ってきてまして小学生が多いんですけれども、そういった意味で、これは私きのうの夜考えたことなんですが、市営アパートを若い人たちに特化して、若い人だけに市営アパートというのは貸しますよ。低廉な家賃で若い人たちが住めますよ、どうぞだから筑前町に住まないで小郡市に住まないで、朝倉市に住んでください。こういった政策を打ったらどうかなというふうに考えております。

過去旧杷木町で似たような施策があったというふうに聞いて、大変成功をおさめたというふうに聞いております。この点について、いかがお考えか御意見をお聞かせいただきたい

いと思います。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（上野篤也君） 住宅のことについての御質問でございます。今住宅の現状を、まずお話をさせていただきたいと思っております。

現在は市営公営住宅ということで、公営住宅長寿命化計画によって建てかえとか、補修とか、計画的に進めているところでございます。この現在市営住宅の状況を見ますと、空き部屋が11部屋ございます。それで、これは年2回の抽選で行っているところでございますが、これは本年度に空き家になった部分でございます。これ2回の抽選で、この部分につきましても、その2回の分で埋まっていくと、抽選が終わっていくと、そういうふうな状況でございます。

今言われましたように、市営住宅におきましての定住宅者向けの住宅ですね——については、本当に今公営住宅に困窮されてある方々についての提供とそういうことでございます。これは公営住宅法ですかね、そのほうなことでうちの都市計画のほうは使っているということでございますので、そういうことで今現在補修なり改良なりをしているところでございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 法律上、若い人だけが優先的に安い金額で入居ができる、これは公平性の原則から問題があるというのは、よく理解できました。しかし、施策としてそういったものが打っていけないかなというふうに思っております。

例えば、よくありますのは、朝倉市で家を建てたら10万円一時金を渡しますよとか、こういったのはあるというふうに思うんですが、10万円もらえるから朝倉市に家を建てようというのは、なかなか僕は結びついていかないのではないかなというふうに思っております。そういった意味で、もう少し若者向けの住宅を準備する、こういった施策を打ったらどうか。また、市営住宅にはこだわらずに、そのために建物を建てるということであれば、費用対効果の問題はどうなんだという議論は当然あると思うんですが、そういったもので若者に対する呼び水にしたらどうかというふうに私は考えるんですが、これにつきましてはちょっと発想として無理がありますでしょうか、御意見をお聞かせいただきたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 都市建設部長。

○都市建設部長（上野篤也君） 今の議員のおっしゃられることは、十分施策としてあるかもしれません。しかしながら、今現在抱えておりますのが、朝倉市で28団地でございます。613戸抱えております。これを順次今長寿命計画によりまして計画的にしているところでございまして、なかなかそこまでの話はできないと。そういうふうな計画と後補修とそういうふうなところでございます。以上でございます。

○議長（手嶋源五君） 6番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 済みません、私の意見は少し現実離れしているのかもしれませんが、先ほど言いましたように、あくまでも提案といいますか、その意見の相違があるわけなんです、この中の、ここから何か学びとか何か力になるようなものが生まれたらいいなというふうに思いまして、ちょっと極論かもしれませんが申し上げさせていただきますので、どうぞ御理解いただきますようお願いいたします。

時間が迫ってまいりましたので、次に民生委員活動における情報開示につきまして、情報提供につきまして質問させていただきます。

民生委員の方から、よくこういった意見を聞きます。自分たちは地区のために一生懸命頑張っているんだけど、なかなか行政側の情報開示が悪い。申請をすれば確かに見せてくれる。ですけども、申請を何回もしないといけないからくたびれる。申請だけでくたびれてしまう。ですから、もっと積極的に情報を開示してくれないか。地域の方の健康状態や生活状態を知るためには、世帯の人数とかそれとか例えば家族が障害者の方がいらっしゃるとか、こういった情報を積極的に開示してもらえないだろうか。申請主義ではなく、積極主義で情報を出していただけないだろうかという意見を聞きます。これについてはいかがお考えでしょうか。御意見お聞かせをお願いいたします。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（三宅 明君） 積極的に開示できないかという、御提案かというふうに思います。現在民生委員さん方に対しましては、一定の個人情報の提供というのはなされております。それはあくまでも基本的、例えば高齢者の単身世帯であったりとか、高齢者のみの世帯であったりとか、そういった部分になろうかというふうに思います。

それ以上踏み込みまして、一般世帯の、例えば一般世帯の家族状況、それから障害の状況とかいうふうな話になりますと、これはなかなか難しい話であろうというふうに思いますので、これを積極的に一律に出すということは、非常に困難だというふうに思う。それはなぜかといいますと、国においては個人情報保護法ございますし、朝倉市も個人情報保護条例を制定をいたしております。内部的に個人情報管理しますけれども、それぞれの業務ごとに管理されている。それぞれの担当業務ごとに担当業務が必要とするものを、項目だけを、その担当部署は個人情報として扱っているという状況でございます。

ですから、横断的にいろんなものを一つの部署で扱うということには、基本的にはなっておりません。ですから、これを自分の業務を超して情報を知りたいということであれば、これは個人情報保護条例に基づきます所定の手続を組まないとできないわけでございます。

その場合も確かに必要だというのが前提としてないとできない、内部的にもできないという、そういうふうな状況でございますので、御理解をいただきたいというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6番（中島秀樹君） 個人情報保護法がございまして、横断的な情報というのは出すの

は難しいというのは確かによくわかります。しかし、全国的な傾向といたしまして、個人情報保護法が弊害となりまして、民生活動に非常に支障を来しているという現実があるのも、これまた事実でございます。民生委員は児童委員も兼ねておりますので、例えば地元の小学生の状態を把握しようと思えば、地元小学生が何人いるかというのは基本的にはわからないという、小学校の入学式の来賓がもらう名簿から何人か推察をしてるというような話も聞いたことがございます。

そういった中で、私は民生委員というのは高齢者対策とかそういったものもございまして、業務が非常に多くなっておりますので、民生委員の方が働きやすい環境を市のほうで準備してあげるべきだというふうに思っております。そういった中で、もう少し融通をきかすべきではないかなというふうに思っておるんですが、もう一度お尋ねいたします。もう少し楽になるように、情報開示の部分において融通をきかすということはできないんでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（三宅 明君） なかなか難しい問題だというふうに思います。先ほど個人情報法条例の話をさせていただきました。これ新聞情報なんですけど、東京の中野区が——議員御存じだと思いますけど、地域支えあい活動の推進に関する条例ということで取り組まれておりますけれども、個人情報の前提になっておりますのが本人からの同意が前提でございます。例外として本人の同意があれば提供できるという部分がございます。でも、これがなかなか現実的にやろうとすると非常に難しい、手間暇もかかりますし、横断的に全部一律にできるというふうなことも非常に現実的には難しいだろうというふうに考えております。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員。

○6 番（中島秀樹君） 時間がなくなってまいりましたので、もうそろそろ終わりたいというふうに思うんですが、最後に区会長、それから民生委員の方、これはコミュニティを支える重要な役割だというふうに思っております。そういった中で、これから協働の中で、区会長、民生委員の方、この方にやはり気持ちよく働いていただく環境というのをやはり市として私は準備すべきではないかなというふうに思っております。非常に法律上難しい部分はあるんですが、先ほど言いましたように地域支え合い条例をつくったりするような市町村もございますので、こういった中でもう少し努力をいたしまして、コミュニケーション、双方歩みよる必要性があるのではないかなというふうに思っております。

私の質問をすることによりまして、何か一步また前に出れたらいいなというふうに思っ

て質問をさせていただきました。

以上で私の質問を終わります。

○議長（手嶋源五君） 6 番中島秀樹議員の質問は終わりました。

午後 1 時 10 分まで休憩いたします。

午後零時9分休憩
